

# 第一回 県西地域懇談会

## 「 観光と各産業 」

～ 各産業に潜在する観光資源を引き出し繋げるために ～

H18.7.26 小田原市民会館

コメンテーター兼司会 地域改革プロデューサー

慶応大学 教授 / 大阪市立大学 特任教授 上山 信一氏

パネリスト

小田原市 市長 小澤 良明氏

富士フイルム(株)神奈川工場 事務部長 服部 徹氏  
(経営者協会 地域活性化委員会 委員)

箱根湯本芸能組合 理事 竹澤 政子氏

熱海市 NPOエイミック 副理事長 二見 康一氏

自治体をはじめ、各産業から申し込みを上回る約140名に参加戴き、会場は溢れかえった。

**開会挨拶：**小田原商工会議所会頭、当協会評議員である原 義明小田原ガス取締役社長から、昨年からの地域で「観光」をテーマに体験観光や修学旅行の見直しを行う中、協会で広域的に観光資源を考える第一回の懇談会が開催され、嬉しく思う。

**上山教授の冒頭コメント**

### 2つの視点

パネルディスカッションを進めるにあたって司会者の上山氏から県西地域活性化のアイデアを考える2つの視点が挙げられた。

1. 業種の枠、縦割りの枠を超えて考える。
2. 行政の区域を越えて来る人が楽しめるための連携をする。

### 恵まれない地域こそ成功している

全国各地で様々な地域再生の動きが出てきている。地域の活性化に「観光」が出るこの地域は非常に資源に恵まれている証である。しかし、当然の話だが、恵まれていない地域ほど頑張っている。今、全国の色々な調査で温泉街のトップに来るのは四季折々の自然がある熊本の黒川温泉である。一つの旅館に泊まれば、どこの温泉でも入れる手形を発行、温泉組合がその利益を植樹という形で地域に還元し緑が益々増えている。このためリピーターで予約も困難なほど賑わっている。

かつては立派な設備の大きな旅館でないと人が集まらなかったのが、その逆の発想で静に楽しみたい個人客に人気を博している。

地域で魅力を再発見し、お客様のニーズを捉え時代の変化に対応をしないと生き残りは難しい。



熱論戴いたパネルディスカッション

### パネルディスカッション

エイミックの二見氏は、もう一度熱海にある600種に及ぶ優れた温泉を見直す課題提起をした。既にある観光資源である温泉を医療(健康や美容)と組み合わせ、気軽に体験出来、その効果を学習出来る工夫をしている。

竹澤氏からは箱根花柳界には芸能教育を徹底した200名の芸妓がおり、半数の約100名が20歳代の「きりり妓(こ)」として活躍中である事、箱根を発展させる為に一緒に考える広域的な組織が無いので是非、近隣地域と連携をしたい事、同時に広域的な観光コースの設置を訴えた。

服部氏は企業の発展は地域との共生を前提にしている。現在の取り組みとして工場見学者の積極受入れや小学校への写真作成の出前事業の取り組み、CSRとしての同社環境保護団体への支援事業を紹介した。

小澤市長は小田原市が持つ4つの財産、1)歴史・文化 2)自然環境 3)恵まれた交通条件 4)人材で の特徴、個性を高く評価した。この4大財産は県西地域の2市8町に共通したものと、小田原市の行政に加え、近隣ネットワークの取り組みを紹介。長い歴史の中で、観光は箱根、商業は小田原という住み分けがあったが観光に今一度目を向けていく必要があるとした。

会場からの意見としてNPO小田原ガイド協会の立木会長からは観光地としての“おもてなしの心”とは何か。松本氏からは、みかん農園にてオーナー制普及の実状紹介があり、地産地消の今後の発展性について上山先生から示唆があった。

また会場参加者にアイデアを募り、下記の実現可否についても話し合われた。

- ・梅の木のオーナー制
- ・ミニ箱根駅伝

- ・小田原城周辺の城下町、江戸の街並み再生
- ・寄木細工の伝統工芸品の活用
- ・箱根の土日マイカー規制

など

開成町の露木 順一町長は県西地域がもう一段観光面で発展するためには、箱根のような地域ブランドに依頼し何とかやってこられた体験から脱却すべき。小田原を中心とする文化的・工芸的伝統を活かし、町として広域的に観光資源を掘り下げたいとした。

**閉会挨拶**：酒井地域活性化委員長から原点回帰と横の繋がりや変化に対応する事等、企業経営に通ずるものがあった。今回の議論を契機に実行のための工夫や連携が着手されれば有り難いとした。



交流パーティで挨拶される沢南足柄市長